

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2011年5月26日

No.21

夏季手当第2回交渉報告!

中央本部は本日15時半から第2回交渉を行ないました。今交渉では、会社の現段階の収入動向及び、今後の見通しを明らかにしました。

会社の説明

- ・4月の運輸収入は、東北本線の不通や大震災で荷主が被災し、紙パルプや自動車部品が大きく減送し現在まで続いている。5月に入り収入は対計画94%前後と若干上向いてきているが、6月の荷主の工場の操業再開までは先が見通せない状況である。今後既存荷主を確保し、荷主が復活し荷物が戻った際の取りこぼしを防いでいく。
- ・関連事業の今年度は西蒲田や中里の分譲マンション販売で338億円を計画しているが、被災した建物（石巻港荷捌き保管庫、塩釜ホームセンター）やFプラザの賃料改訂などで計画達成は厳しい状況。

中央本部の指摘

- ・ **収入確保に向けた今後の増収策を示されたい。**
- ・ **夏の電力制限への対策を政府に要請するなど対策を講じられたい。**
- ・ **迂回輸送などで社会貢献したJR貨物を前面に出し、収入計画の達成に向け、全社一丸となれる体制をつくるべきである。**

指摘に対して会社は…

- ・運輸収入の確保に向け各荷主の情報収集に努め、取りこぼしの無い機敏な対応をしていく。また関連事業は社宅の統廃合跡地など、利用可能な土地の再開発を計画から前倒しして進めていく。
- ・電力制限に対し貨物列車の運行を確保できるよう、関係各所へ要請していく。
- ・震災での取り組みは外部から大きな評価を得ている。収入の確保に向け、社を挙げて取り組んでいく。

最後に中央本部は、震災で収入が厳しいのは当然だが、①22年度を経常黒字にした組合員の苦勞に対し、目に見える形として示すべきである。②これまで会社は黒字の還元は期末手当で行うと明言してきた。③収入計画の達成は極めて経営責任である。迂回運輸など大震災下で奮闘した組合員の苦勞に応えることを通告し、交渉を終えました。

次回交渉は6月2日（木）です。

以上